

日本指圧専門学校同窓会



# 会報

第 7 号

発行年月日 昭和63年3月31日  
発行者 山内貞四郎  
編集者 小林 秋朝  
日本指圧専門学校同窓会  
東京都文京区小石川2-15-6  
〒112 TEL 03-813-7354  
題字 山内貞四郎



## ご挨拶

同窓会々長

山内貞四郎

会員の皆さまには、お元気でご活躍の事と思ひます。昨年の総会には、遠方の方々もかなり出席され、その中には高年の方もまじつて、しかも笑を浮べてご出席いただきました事は、同窓会の今後の盛りあがりにとって、大きな力となるであろうと楽しみにしている次第です。

同窓会における昨年の事業につきましては、例年のように会報の発行と学術講演でありましたが、会報につきましては、会員の皆さまから、年を経るごとに会報の内容や装丁が充実してきているのではないかとのお褒めの言葉が、そちこちから戴くようになりました。内心喜んで居る次第です。勿論これは会員諸兄姉によるご協力と、編集委員長小林秋朝先生の永年にわたる苦心と努力の實りによるものと思ひますので、両者に対し心から感謝の意を表したいと思ひます。

皆さん、もう一度昨年の会報を手にして見てください。頁一、二、三には有益な学術講演とスポーツ指圧やストレッチングで満たされ、四頁には川上よし先生提供による浪越名誉会長の、威厳の中にも優しさの滲み出ている面影に接することができ、この人にしてはじめて「指圧の心 母心おせば生命の 泉わく」という名句が生れるんだなあとという感が強く胸を打ちます。七、八、九、一〇頁もそれぞれ面白く読まれるし、「小さな黒板」などは、「大きな黒板」に見えるのも不思議な編集技術です。同期会便りも実に楽しく読ませて戴き、間然する所なしという編集です。

出口先生のご講演も貴重なお話でした。特に演題は「動脈硬化と脂質代謝」という、私達にとって大事な知識ですから、ひと言も聞

きまらすまいと、会員の皆さまは熱心に聴講されました。

次に協賛金について、ご報告申し上げます。会員皆さまのご厚志によって、昨年度は四十三万一千七百八十円協賛して戴きました。一年目は四十四万三千円、二年目は三十九万九千四百円ですから、全部で合計百八十八万四千一百八十円になります。この協賛金は使途につきましては、毎年のように種々協議いたしておったのですが、新年初め役員会において、一般運営資金と一しよにして使用させて戴いてはどうかという案でまとまりましたので、来る四月に開催される運営委員会の正式決定をまつて有効に使用させて戴きたいと思っております。

さてもう一つお知らせしたいことがあります。それは本会の名誉会長浪越徳治郎先生が、主婦の友社発行の健康雑誌「わたしの健康」に「自分でできる浪越式ひとり指圧の極意」と題する指圧方法を発表されました。これについては、一月五日の指圧協会の新年会でお話ししましたので、ご存じの方が多いと思ひますが、全文十六章より成り、簡潔な文章で読み易く、活字も大きく、写真入りですのでわかり易く、すばらしい論説です。一字一字丹念に読んでみますと、先生の指圧六十五年の歴史が、この「ひとり指圧」の中にきざみ込まれて居るといふ感を深くします。この軽妙な指圧方法を会得したら、すばらしい実力者になると思ひます。一例を申しますと、私の患者で便秘を訴える患者に、この「ひとり指圧」の便秘の一章をよく説明して実施させた所、一日に四回も排便があつたと報告してきました。効き過ぎたのかもしれない。S状結腸を五十回前後のひとり指圧で、きれいに排便されるようです。皆さんの一読をおすすめいたします所以です。

和気靄々(あいあい)日本指圧専門学校同窓会総会  
(昭和62年6月14日茗溪会館にて)



# 窓

## 日本指圧専門学校同窓会通常総会

懐かしや

# 年一度の顔合せ

## 緑映える茗溪会館に集合

日本指圧専門学校同窓会の昭和六十二年通常総会は六月十四日午前十時から恒例の茗溪会館で開催された。年に一度の懐かしい顔合せとあって全国各地から集った参加者九十六名に及ぶ盛況――。

開会に先立って、物故された同窓の方に黙禱を捧げ、藤井副会長の開会の辞、君が代斉唱に続いて山内会長のあいさつ、浪越名誉会長・佐藤指圧協会専務理事の祝辞があつて議事に入る。

司会者一任により議長団に片岡弘昌(副会長)鈴木孝雄(運営委員)両氏が選ばれ、藤井幹事長の61年度事業報告、青木宏会計の会計決算報告、山口監査の監査報告をいずれも拍手で承認、次いで役員改選に移り、議長から「去る四月二十五日の運営委員会において現在の役員全員留任が了承されたので、本日の総会においてご承認頂ければ――」

との発言あり、満場拍手をもって決定された。

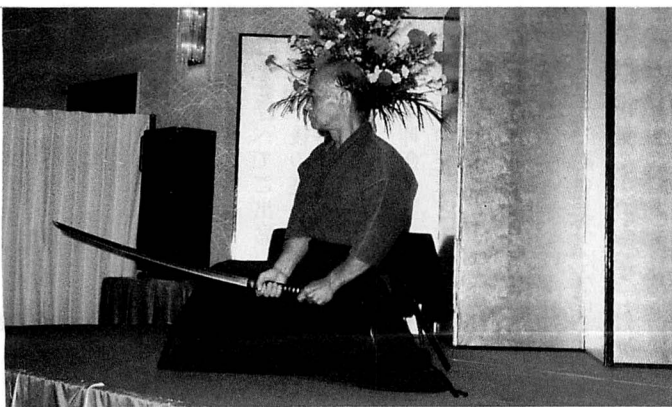
続いて新年度の事業計画と予算案の報告を承認決定、山田滋運営委員の閉会の辞をもって総会を終る。

引続き同席において講演会に移り、日本指圧専門学校講師出口和雄先生が「動脈硬化と脂質代謝」の演題で十二時二十分まで、スライドを用いて明快な講演があり深い感銘を与えた。

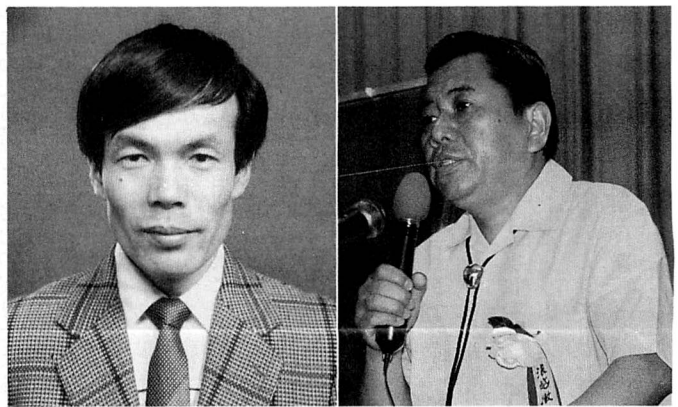
記念撮影後、隣室において懇親会に移ったが、開宴に先立って同窓会相談役浪越徹先生から「指圧によるスポーツ障害の予防」と題して特別講演がある。

副会長石垣惟一先生の音頭による乾杯をもって開宴となり、別項のような演芸競演があつて午後三時、名残りを惜しみつつ閉会した。

(指の光349号より)



真剣居合 香取神道流、石神登志雄先生



講師の㊦出口和雄先生と㊧浪越徹先生



和やかな先輩、後輩との交流

## 演芸競演

(順不同敬称略)

〔真剣居合〕香取神道流・石神登志雄(歌謡)山小屋のともしび・佐藤玄祥(日舞)春風・山本文子(詩吟)田原三千代(歌謡)男華・川原善次郎(同)水雨・石原博司(日舞)五月雨・佐藤栄江子(歌謡)長崎の女・浪越徹(日舞)黒田節・中沢要蔵(歌謡)琵琶湖周航のうた・田村鉦二・出口和雄(歌謡)忘れな草をあなたに・佐々昭三(歌謡)居酒屋・浪越満都子・青木雅美(歌謡)祝船・内城勇造(舞踊)指圧音頭・五禽の会(合唱)校歌・指圧音頭

# 役員親睦

# 旅行会

同窓会役員有志八名が三月十七日熱海静観荘で、今後の同窓会組織作りの研究と懇親の一泊旅行会を持った。(会費自費)

これは去る一月役員会で相談役の浪越徹先生から「同窓会の組織作りには、会が楽しいとの印象を与えることが大切。」

旅行会、懇親・研究会などの楽しい催を行ない、できる範囲から同窓会の集いの輪を広げていってほすとの提言があり、まず役員会からということで、この日の集いが開かれることになった。

会は午後五時迄に現地集合、別室で研究会が開かれ、①63年度総会の細部日程②同窓会活動を在校生に知ってもらう機会を持つよう心がける③協賛金の使途④会員の親睦を高めるため楽しい催を企画し、同窓会の輪を広げて行くなど熱心な話し合いが交わされ、六時三十分から楽しくうちつけた懇親会に移った。

なお、当日の参加役員。

相談役 浪越徹先生、会長 山内貞四郎先生、副会長 藤井正弘先生(幹事長)、片岡昌弘先生、幹事 小林秋朝、上野欣二、木下誠、山田明信の諸先生。



右から藤井、山内、浪越 徹、片岡、山田、木下、小林、上野の諸先生

## 同窓会役員、幹事、運営委員氏名

- |      |           |      |   |
|------|-----------|------|---|
| 名誉会長 | 浪越 徳治郎    | 副会長  | 石垣 惟一、吉田 克広、藤井 正弘、小出 忠志、片岡 弘昌                           |
| 名誉顧問 | 川上 春治     | 幹事長  | 藤井 正弘   |
| 相談役  | 浪越 徹、井沢 正 | 副幹事長 | 上野 欣二   |
| 役員   | 会長 山内 貞四郎 | 會計   | 青木 宏、浜中 喜美子   |
|      |           | 書記   | 浪越満都子、木下 誠  |
|      |           | 幹事   | 小林 秋朝(同窓会会報編集委員長)、上野 欣二(同窓会会員名簿作製委員長)、山田 明信(同窓会会則諮問委員長) |
|      |           | 監査   | 山口 忠治、小川 清  |

- 運営委員氏名下の( )内卒業期
- 定祐寅一(学院) 吉田克広、持木光子  
 (第一期生) 上平雅久(第二期生) 稲場啓護、青木雅美(第三期生) 杉野隼太、春日井力(第四期生) 吉野文雄、秋元一郎(第五期生) 石垣惟一、齊藤嘉子(第六期生) 広村貞雄、杉山きよ(第七期生) 鈴木林三、赤沢えい、松下義夫(第八期生) 四徐静江、九井孝男(第九期生) 高橋宏次、高野正之、小出忠志(第十期生) 工藤てる、川上金造、増子富三郎(第十一期生) 田村親郷、糸賀伸由(第十二期生) 田端哲郎、佐々木重雄(第十三期生) 伊原芳雄、本杉高啓(第十四期生) 相沢金雄、小林彦太郎(第十五期生) 高橋和子、浪越満都子、前田フサ子(第十六期生)
- 戸来みや子、小林秋朝(第十七期生) 木下誠、新多喜治、横関夏夫(第十八期生) 青木宏、佐藤玄祥(第十九期生) 舟島正八、伊藤節子(第二十期生) 片岡弘昌、高野助二(第二十一期生) 松尾政次、岡未守(第二十二期生) 横尾益夫、山崎竹照、山田明信(第二十三期生) 山田滋、馬場今朝美、高野昇司、徳永勇治郎(第二十四期生) 松本定男、佐藤元彦、片瓜和夫、小川清(第二十五期生) 野口伸二、古谷真人、佐藤優(第二十六期生) 高梨竜一、小山輝男(第二十七期生) 中島祥景、七海仁一、結城国夫(第二十八期生) 鈴木甲子男、片野和夫、石神登志雄(第二十九期生)



# 応病指圧法

日本指圧専門学校

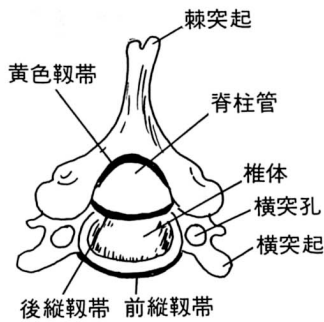
副校長 浪越 徹

## 後縦靱帯

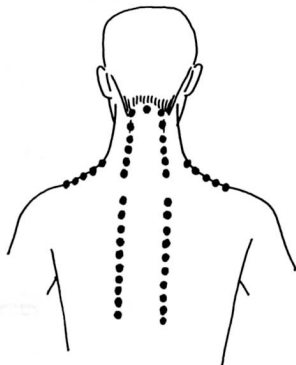
## 骨化症

脊柱に附着している靱帯には椎骨の椎体の前部に附着する前縦靱帯、椎体の後部で脊柱管に面して附着する後縦靱帯、後縦靱帯と脊柱管をかこみ椎弓に面し黄色靱帯とがある(図1)。これらの靱帯は強い線維性の結合組織で第1頸椎から仙骨まで帯状に長く附着している。最近、特に後縦靱帯に骨化する傾向がみられ靱帯組織の老化で40才以後におこる。英語で Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament の頭文字をとり略して、"OPLL"と呼んでいる。

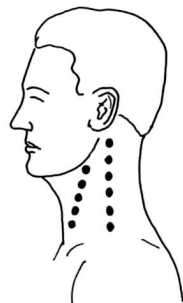
症例では頸椎後縦靱帯骨化症が最も多くみられ近年注目され始めた疾患で日本人に多いといわれている。いったん骨化をきたすともとの状態にはもどらず、帯状に長く骨化する頸椎全体の正常なカーブは消失して神経根を圧迫したり、骨化が肥厚すると脊柱管が狭窄され直接に脊髄を圧迫して頸部や上肢の痛み、手指のしびれ、ふるえ、麻痺などの脊髄症状を呈する。この原因としてはさだかでないが単に老化現象というより頸部の筋群に過度の緊張が持続されて慢性的な拘縮をきたし頸部



(1) 頸椎



(3) 指圧部位



(2) 指圧部位

### 1、横臥位での頸部牽引法

#### 左横臥位で左側頸部の牽引法

患者を左横臥にさせ頭部を枕にのせたまま術者は患者に向って正座し、右三指をそろえて左乳様突起にぴたりと密着させ右三指の上に左母指をあて左四指は右側頸部にまわしてあて支え、術者の手前に向って水平の方向で1回、6、7秒、両手で手前に引くように牽引する(図4、5)。右横臥もこの逆で同じ要領で行う。

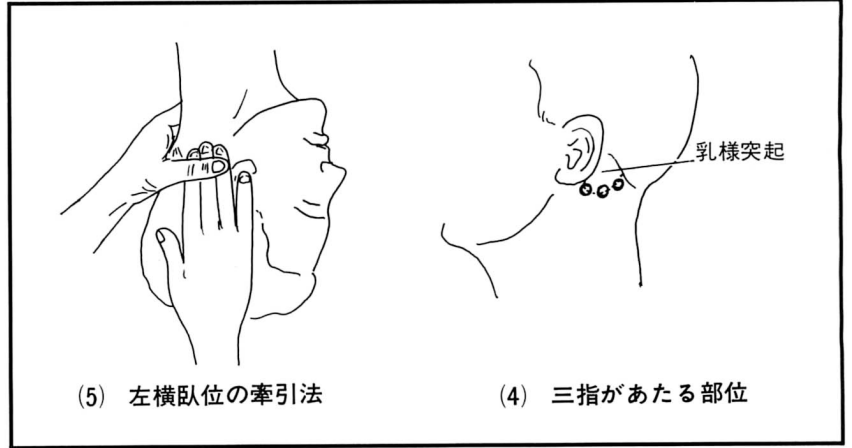
の可動域が制限されることも考えられる。職業的にいえば椅子に腰かけて頸部と上体をやや前屈したままの姿勢などもあげられる。骨化の予防としては頸部及び背部の筋群に柔軟性を与え新陳代謝を活発にして椎間円板の水分の保持と弾力性を保ち頸部の運動可動域をスムーズにすることが大切といえる。骨化は徐々に進行するのでふだんから頸部の動きにこわばり、きしみ(異常音)、痛みなどに注意する。指圧の予防と初期の治療としては、頸部と肩背部の筋群をきめ細く十分に施術する(図2、3)。次に頸部と肩背部の徒手牽引法を行う。

牽引法で特に注意することは決して急に強く行わずに、吸引圧法の技法で徐々に牽引し可動域と時間をオーバーしないようにする。

## 2、伏臥位での頸部牽引法

### 伏臥位で左側頸部の牽引法

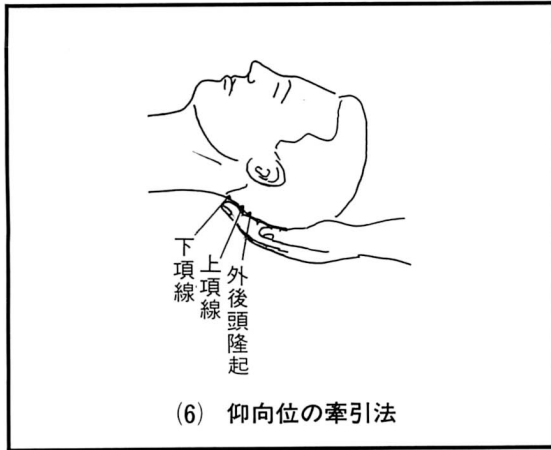
患者を伏臥位にさせて枕をはずして顔を左に向けさせ術者は患者に向って正座し、横臥位のとときと同じ方式で牽引する(図4、5)。



## 3、仰向位での頸部牽引法

### 仰向位で後頸部の牽引法

患者を仰向位で頭部を枕にのせのまま術者は頭部に向って正座し両四指をそろえて外後頭隆起を中心にはさむようにして後頭骨の下縁、即ち上項線と下項線の間の両側にびたりと密着させ手前に引くように1回、6、7秒牽引する(図6)。



からだ全体の動きの中で特に頸部の動きが少ないのは意外と気付いていない。頸部の自己指圧とストレッチングによる頸部の柔軟性を保つようにする。頸部のストレッチングでは前屈後方伸展、側屈回旋を十分に行う。毎朝、うがいをするときにできるだけ頸部を後方へ反らせるなどこのような一寸した毎日の動きを欠かさないようにする。

# 日本指圧専門学校

## 臨床研究科

本校においては昭和六十二年度より、次の通り臨床研究科を設置し、指圧臨床について、より深く高度の知識と技能を研究し、その効果を一層あげ、社会に貢献しうる有能な人材を養成することを目的とする。

なお将来、この道の専門的な研究と研修を志す方々に臨床実習の研鑽をつみ臨床研究に確信ある人材の養成をめざしている。

出願書類(願書、履歴書、出身学校卒業証明書、健康診断書、写真)  
7、時間割 5日制 土曜日休み、但一日午後臨床実習あり。

### 臨床研究科の内容

#### I、研修(研究)部門

(1)基礎医学(臨床、予防に関連するものを含む)その他原則として

解剖学・生理学 六十八時間  
病理学・衛生学 六十八時間  
診察概論 六十八時間  
臨床各論 六十八時間

漢方、経穴概論 六十八時間  
臨床心理学 六十八時間  
実習 四百八時間

臨床実習 (リハビリテーション 治療を含む) 他に一日午後臨床実習あり)

一般教養 六十八時間  
合計 八一六時間

(2)一般教養に含まれるもの  
栄養学、救急処置(日赤救急指導員資格取得)、経営、英会話、家庭指圧指導員資格等を含む。

II、臨床治療部門  
研修、研究を推進する場として患者の実際治療と臨床研究を行います。

III、講師  
校長浪越徳治郎、副校長浪越 徹 外  
本校講師、その外 外来の有能講師を  
依頼する。

文京区小石川二一五十一六  
日本指圧専門学校  
電話〇三一一一三三七三五四

1、学生定員 三十名  
2、修業年限 1年(4月)翌年3月)  
3、入学資格 あん摩マッサージ指圧師の免許取得者又は取得見込の者であつて次の各号の二に該当する者  
(1)専修学校専門課程卒業生又は卒業見込の者  
(2)各種学校専門課程卒業生又は卒業見込の者  
(3)大学(短期大学を含む)卒業生又は卒業見込の者  
(4)外国において学校教育12年の課程若しくはそれに相当する課程を終了した者

4、入学時期 入学に関する費用  
(1)入学時期 毎年、年度始め(4月)  
(2)費用 ①入学検定料 一万円  
②入学金 一十万円  
③授業料(年額)二十四万円  
(計三十五万円)

5、願書受付 昭和六十三年三月一日  
西月末日

6、選考・発表 選考/出願書類、面接を総合して決定:

4、入学時期 入学に関する費用  
(1)入学時期 毎年、年度始め(4月)  
(2)費用 ①入学検定料 一万円  
②入学金 一十万円  
③授業料(年額)二十四万円  
(計三十五万円)

マ  
人  
ウ  
エ  
人

マ  
人  
ラ  
人  
フ

マ  
人  
タ  
ウ  
ン

MY WAY  
MY LIFE  
MY TOWN



第十二期生

佐藤 利吉

### 指圧奉仕活動の手順

年々高令化がハイスピードで進んでおります。五〇年後には四人半に一人の割合で六五才以上の超高令化社会となり、若い人達は月収の三分の一を保険料に廻さなければ年金制度維持が成り立たないと報ぜられております。

それに伴い、老人ホームも年々増加して行くことは明かです。そこで益々私達に関連ある指圧の社会奉仕活動は盛んに実施されていることが「指の光」で知らされ報道されるようになってきました。

しかしまだ、やってみたいが、どのような道順を踏んで行ったらよいか、迷いや疑心暗鬼の場面もあるかと思ひ、そこで全部当てはまる訳けには行きませんで

しようが一つの手順基礎方針を述べてみたいと思います。

**下準備**  
それには先ず、下準備が肝要です。支部団体の結束、どこ施設にするか目安を立てる。凡その人数の確認、それが決つたら

#### 老人ホームとの打合せ

電話でも良いから老人ホームの係りの方と打合せに伺つてもよいか連絡します。応答があつたら幹部の方で訪問します。

どこの施設にも養護課或は養護係りの方が居られますから、その方に会つて打合せと下見もできたらお願いしてみてください。あくまで宣伝活動や営業目的ではありません。あくまで無償の奉仕活動の「指の光」を提示すれば早急に納得してくれること受け合いです。そして何月何日何時から幾人位派遣の予定、なおたいていの施設がロビーとか集合室があるものです。そこを空けて使わせて頂く。

そして救急事態や突発的な時のために、リネン室には下に敷くマットレスや毛布、枕等の予備が沢山保管されているようです。係の方に話してそれ等の必要な分はふんだんに利用させて頂くようお願いし、更に希望指圧者の凡その見当、手拭かタオルの用意もして頂くよう、などの配慮

が必要かと思ひます。

**打ち合せが済んだら、奉仕活動の日程**  
集合時間、施設までの交通関係、手拭かハンカチ、白衣があれば上下いづれかでも用意持参、食事時間が重複するようならその勘案などについて連絡伝達します。

#### 施術時の注意事項

これは施術前に支部長か幹部の方が話します。患者は皆高令者です。特に炎症でもある方はなお更骨が脆くなつております。背中等の施術の場合強い衝圧、衝激の禁止。横臥位指圧の場合、よそ見などして脊柱より手が離れる程肋骨骨折を起し易いから脊柱寄り、権弓、目がけて指圧のこと。運動法や整体操作には骨格の固くなつておられる患者は大変恐がつたり嫌いますから気をつけるよう心得て指圧します。外に被施術者の希望人数によって20分とか30分以内とか時間の配分等についてもお話する必要があります。次に患者の姓名年令主訴など簡単にメモしておくと後で反省会や集計時等に大変役立ちます。

以上

(北多摩支部で昭和62年東京・東村山老人ホームの奉仕活動を施行、それを参考に体験談として講成しました)

学院六期卒・九期聴講生

川上 よし

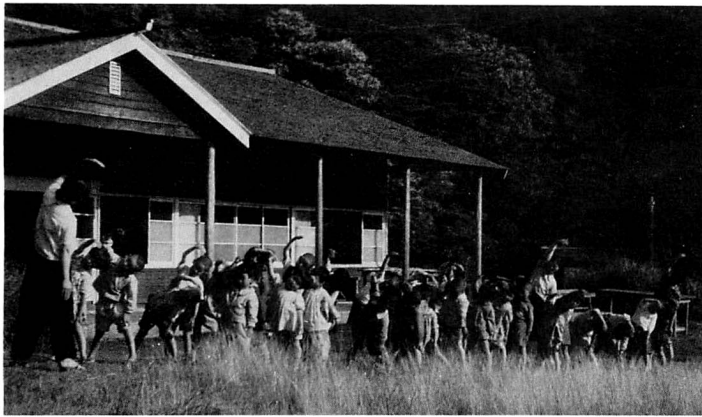
(旧姓 前島)

### 浪越徳治郎

#### 校長の昔の顔

—その2—

校長先生の昔の顔と題して昨年の会報に書かせて頂きましたが(その1)としてしましました。そのせめを感じ今年もそのためにペンを走らせますものの当時の沢山の校長先生の顔がちらつきまじめに困る始末でした。同じ先生の顔が、そうちがうはずはないのにまともまらないのはおかしいのですが、それ程先生は無数の顔をお持ちです。私は昭和十九年三月にはじめて受持った幼稚園生の卒業式をすませて、その卒業生数人とその兄弟達を加えて十八人と共に信州軽井沢の山中に疎開することになりました。何故かと言うに疎開する田舎のない園児の父母達と教師の集りが開かれ。二月の雪の風吹く夜であったが父母達は我が子を上級生の居ない国民学校へ入学させるより(三年生以上は学校の集団疎開で東京の学校は二年生以下の子細い学校となつていた)慣れ親しんだ幼稚園の先生と共に疎開し疎開地の小学校(当時は国民学校と呼ばされてい



朝の体操 疎開中の学童達

た)へ入学させてほしいとの希望でした。幼稚園では園長安部ゆひ先生はこの幼い子達は、親からはなして田舎の暮しをさせるのはふびんすぎる、死なばもろともそばに置いて守りなさいとの意見であった。父母達は、自分等は東京をはなれるわけにゆかないので空襲で死ぬかも知れない国のためには子供は残さなくてはならない安全な所で守ってほしいと悲壮な決心で子供の身分書を安部先生に託して子供を手ばなす事に定まったのでした。安部先生はこの幼稚園の園長としてはじめての日本人の先生なのでした。代々はるくカナダから来られ日本の教育のために青春をかけられた先生方はそのよき働きをつづけるわけに行かない戦争と言ういまわしい時に当り、日本人から追わ

れる様にして国に帰えられました。その後の苦しい時代の責任を負われた安部先生なのでした。広い学問をされ立派な方ですが70才近い御年であったにもかかわらず、親達の心に應えて幼稚園の疎開にふみ切りました。その先発教師として私があたり疎開地に入ったのでした。

親達と本館(幼稚園)との連絡のため時に上京することのある私は、用事をすませて列車を待つ時間は伝通院の浪越先生の所に立ちよりました。研究会があるとそれを拝聴し、無ければぼつねんと治療部のすみっこで見学させて頂きました。そんな時浪越先生は「ヤアヤア前島さん」と明るく迎えて下さり、研究生の一人に「○○さん前島さんの身体借りて勉強しなさい」と言つて下さり当然私は全身治療を受けることになりました。「借りて勉強しなさい」とは何だったのでしょうか。教師道か教師心か、親心か。やっぱり母心。をあげて任地に向つた私は元気一パイ働きました。疎開地で親しくなつた、おじさん、おばさん方に「よく身体が続く」とほめられました。食糧買出し増配をたのみに、遠地の地方事務所まで汽車の便が悪く切符が買えないと歩き、よい物頂くとリュックに入れて背負つてかえる。そんな毎日三年間続きました。或る時生徒を入学させた国民学校の校長先生と列車の中で会い、話しているうちに、校長先生胸をおさえて青くなり苦しみ出されおどろいて、背をなで首をおさえてついで目的地まで行くのを変えて校長宅まで同行して、奥様の用意した床の上までお供して校長先生の油汗が引き安らかに眠れそうな様子をみてから校長宅から帰つた



薪を背一杯に、冬ごもりの用意。

事がありました。その何日か後に、私の生徒の克美君が学校から帰寮すると私に「僕達の友達がね、今日僕に言ったけれど、疎開学荘の前島先生は柔道七段だつて。だから最終列車で来ても山道こわくないんだつて」と、目を丸くしてほこらしげに話してくれました。「柔道七段」なんてあるかないか私は、知らない。六段ぐらいまで聞いたけれど。「まあ」とあきれたけれど悪い気のしない空気だったので嬉れはじめ「程のことはなくとも、母と暖かい炬燵の待つ家に帰える生徒とはちがう。同情されることはあつても耐えなければならぬ事。沢山の生徒でしたから、これはせめてもの慰めでもあつたらう」「付そい教師が強い」と言われることはやはり私

はうれしかった。浪越校長先生の指圧は母心である。そして伝通院ではじめて聞いた浪越先生のお話しの中で、その頃紋付はかまのスタイルでしたから紋付の袖をたぐり上げたくましい腕を会衆にさしのべて例の通りのよい声で

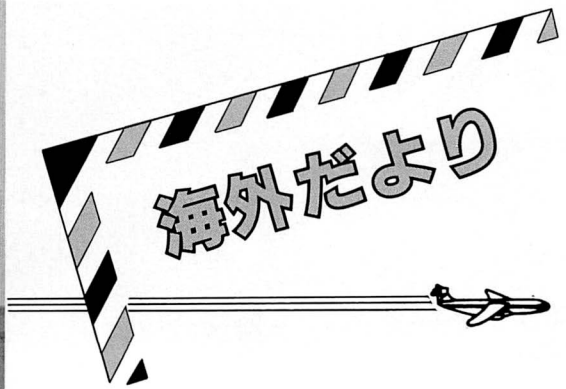
「キリスト手を按ずれば病たちどころに癒えとキリストも……」とのべられた。一コマはミッシェンスクールに学んでいた私の心に今もあざやかに焼きついていますが。当時の小学校校長に当てられた私の手はどんなにか痛かつたのか柔道七段ぐらいと生徒に話された由、まぼろしの七段はうれしいおもいでです。今年私の年童年です。まぼろしの竜、現存して私の指圧を母心にするまで練えてほしいと希っています。

追伸

昨年十二月からクリスマスお正月返上で息子の家に来ています。突然息子がたおれた知らせに、心の置き場もないおもいでこちらへかけつけました。無念、おそれなかつた無念さはどうしようもなく、それでも出来るだけのことはと、この地にとどまり、トヨタ記念病院の完備された、リハビリテーションに協力して息子の家にすごした2ヶ月、人間らしく回復出来る見通しもつき感謝のうちに63年を迎えることが出来ましたので出先からつたない原稿を送らせて頂きます。こちらに来て自分の疲れは、豊田市に住まわれる鈴木ヒデ様に指圧をして頂きました。杉浦忠様とお世話になり、同窓生の近くにいらつしやうた事は力強いことでした。



左より藤井雅訓、斉藤健一、奈良厚子先生



トロント  
指圧道場 健泉  
二十一期生  
斉藤 健一

### 指圧の普及

昨年11月にトロントで、待望の徹先生の指圧セミナーをもち、これは大成功を収めました。徹先生が御自身の持ち味を充分に披露して下さい、大変に充実したセミナーでした。こういった日加間の指圧交流が、今後益々増えていく事と思えます。

昨年の暮れから今年の正月にかけて、ハワイ・東京と回り、因泥先生、浪越徳治郎大先生そして同窓会の諸先生方、皆様にお会いできて、充分、指圧普及エネルギーを充電してトロントに戻って参りました。先生方とお会いする時、楽しみにしている事が三つあります。それは①自己の経験との照合②そこから生じる知識の再確認③新しい知識の吸収でございます。即ち、自分の日常の指圧治療、指圧活動の中で得た疑問点、つまり、私はこの事に④関してこう感じた、こう処理した、また、こう思っているが先生方はどのようにに④に対応しているのだろうか。そのような事がお会いした時に、先生は「自分はこうだよ。」とお話下さると、もし、私の感じていた事と合致すれば、やっぱりそうかと②の再確認につながり、「自分はどうしてみた」「こうしてみたらどうか」と、今まで私の全く知り得なかった事、あるいは臆ろげながら感じていた事を示唆して下さいと③の新しい吸収へつながります。こういった勉強をさせて頂く事が指圧学校同窓生ならではの貴重な特権であると考えます。

さて、今年のトロントは、1月中旬に

竹下総理、宇野外相、小沢官房副長官等政府首脳のトロント訪問があり、6月にはサミットが開催されます。昨今の、トロントを中心とした日加両国の接近は目を見張るものがあります。

私がトロントに移り住むようになって9年足らず、この地がことのほか気に入っているのは ONE OF THE IDEAL INTERNATIONAL CITIES (理想的な国際都市のモデル)ともいわれていますように、あらゆる人種が(その数68、毎春、メトロキヤラバンというお祭りが繰り広げられる)互いの理解を深めながら共存共生しているという事、そして何よりも、トロントの街が活気があり息づいている事です。まさに、現在、今、という時を、世界の流れの中で生き抜き、活動している都市であるという事です。

この都市で指圧の普及活動をするという事は、カナダのみならずアメリカにも、そしてヨーロッパにも指圧を浸透させるのに充分な効果を期待できるとい、たとえていえば前頸部一点目か、はたまた浪越圧点をおさえているような、とに角効果絶大なツボ(拠点)であるという事がたまらない魅力です。(笑)

さて、そのトロントで今年、カナダの2大百貨店であるイトトン、シン普森を中心に、資生堂の依頼でキャンペーンを行なう事になっていきます。これは月に3回、半年間位という要請がきているのですが、テーマは美容と健康なので、徹先生仕込みの「自己指圧」を軸に展開していきたいと思っています。また、今年に初心に戻り自己のテーマである「指圧の普及」を中心に毎日取り組もうと思っています。勿論これには、毎日の道場での一人一人の患者に対する指圧治療の積み重ねが土台となるわけですが、幸い藤井



資生堂提供の指圧デモンストレーション 於 イートンデパート

雅訓君(25期)、奈良厚子さん(28期)の強力な助っ人が道場におりますので、もう一歩違った角度からの指圧普及の草の根運動の展開を考えております。この事はまたの機会にお話するとして、6月にはサミットの他に、新体操の国際競技会があり、これも常日頃、当道場へきて指圧でコンディション調整をしているカナダの女子選手達が出場するので、欠かせない大事な仕事のひとつです。このあとに予定されている西ドイツでの指圧国際大会、時間の余裕があれば、時々指圧を受けにスイスから来て下さる方がおられるので、スイスへもまわってみたいと思っています。8月にはアメリカからセミナーの要請があり、これは現在検討しているところですが、9月にはソウルオリンピックがあり、前述の新体操選手達が五輪に出場が決定すれば、韓国の帰りに東京で又、皆様にお会いできるかもしれません。今年も、小生の指圧道場理念である「世界人類の健康と平和」に貢献し、その実現に一歩でも近づければと念じている次第です。



# 日本指圧専門学校 同窓会 決算書

(自 昭和62年4月1日)  
(至 昭和63年3月31日)

## 収入の部

科目	内 訳	62年度予算	62年度決算
会費	終身会費	1,275,000	1,260,000
事業	總會懇親会費	400,000	420,000
雑収入	預金利息	50,000	55,511
	その他	50,000	85,000
	計	100,000	140,511
	前年度より繰越	2,137,152	2,137,152
	収入総計	3,912,152	3,957,663

## 支出の部

科目	内 訳	62年度予算	62年度決算
会議員	總會費	700,000	760,085
	役員会費	20,000	29,320
	計	720,000	789,405
事業費	会報発行費	1,000,000	655,900
	会員名簿費	200,000	0
	計	1,200,000	655,900
本部費	人件費	10,000	0
	通信費	150,000	30,000
	印刷費	100,000	6,000
	渉外費	200,000	143,000
	交通費	50,000	0
	慶弔費	10,000	0
	事務用品費	20,000	1,520
	雑費	10,000	0
	計	550,000	180,520
		予備費	200,000
	支出合計	2,670,000	1,625,825
	次年度繰越	1,242,152	2,331,838
	支出総計	3,912,152	3,957,663

## 決算付記

### 収入の部

○終身会費(年次、一人当五千元、二年次同五千元)  
三〇期生 A組 七三名分 B組 四七名分  
三一期生 A組 七三名分 B組 五九名分

### ○總會懇親会費

五千元×八四名  
○總會ご祝儀

浪越徳治郎校長から二万円  
佐々昭三先生から 五千元  
田村錚二先生から 五千元  
小林久夫先生から 五千元  
○寄付金  
二期齋藤健一氏から五万円

### 支出の部

○会報発行費  
印刷 四、九〇〇部  
発送 四、二〇〇部

### ○渉外費

夏期大学二五回記念祝金 三万円  
川上春治先生米寿・都民功労賞受賞 祝金 二万円  
三〇期卒業生に皆勤賞、精勤賞、優等賞として賞品 三万円  
指塚供養生花代一万円、体育祭協賛金 五万円は例年通り

### ○通信費

学校へ電話使用料として三万円  
○印刷費  
学校へゼロックス使用料として六千円

### ○次年度繰り越しの内訳

貸付信託として百万円  
金銭信託として五五九、三五一円  
郵便振替口座残金 七、四六〇円  
郵便貯金 七六五、〇二七円

昭和六三年三月三十一日

会計委員 青木宏

## 協賛金賛助者

### ご芳名

同窓会協賛金制度は皆さまの御協力で昭和六十二年度で三年目を終りました。六十三年三月一日現在の御入金額は次のとおりです。

▽現金入金 47名 一八九、七八〇円  
▽振込入金 62名 二四二、〇〇〇円  
▽合計 109名 四三二、七八〇円  
(郵便振込手数料 四、三一〇円)  
なお三ヶ年の入金合計は次のとおりです。

昭和六〇年度 四四三、〇〇〇円  
(郵便手数料 五、四五〇円)  
昭和六一年度 三〇九、四〇〇円  
(郵便手数料 四、一四〇円)  
昭和六二年度 四三二、七八〇円  
(郵便手数料 四、三一〇円)  
三ヶ年合計 一、一八四、一八〇円  
(郵便手数料 一三、九〇〇円)  
◇六十二年協賛金入金一覧  
(順不同、敬称略、カッコ内卒業期、  
◎現金入金、◎郵便振込)  
〔五万円〕一名。◎齊藤健一(21)

〔二万円〕七名。◎村山明夫(5)、◎岡元満(11)、小峰俊夫(14)、井上征夫(20)、高野助二(21)、井尾栄(22)、畑中糸美(28)

〔五千元〕三十六名。◎定祐寅一(学)  
川上春治(1)、相沢君江(1)、永井浪子(5)、牧田豊子(6)、川上よし(学院)、高野正之(10)、池田英光(10)、齋藤良知(17)、瀬戸玲子(17)、浜中喜美子(18)、湯沢洋二(22)、篠原悦子(24)、岡本草苑子(24)、黒沢信男(24)、岡田悦子(25)、

沢畑碩亮(25)、阿部保司(26)、奥筋太郎(27)、木原静江(27)、石川久仁雄(28)、◎浪越徹(学)、定祐寅一(学)、持木光子(1)、石原雪江(1)、稲場啓護(3)、石原博司(4)、佐藤若治郎(6)、水岡道三(7)、藤井正弘(8)、山内貞四郎(10)、田村親郷(12)、浪越満都子(16)、高橋和子(16)、山田明信(23)、小川清(25)  
〔四千元〕二名。◎山田滋(24)、高橋福見(24)

〔三千元〕二十三名。◎青木雅美(3)、工藤てる(11)、小林秋朝(17)、上野欣二(17)、山口忠治(18)、木下誠(18)、舟島正人(20)、片岡弘昌(21)、◎福沢司津江(1)、木暮やす(2)、石原和信(6)、前川磯文(9)、嘉義了久(10)、上村道子(16)、高山国雄(18)、安斎守(19)、川濱一廣(19)、知久喜要治(19)、川本博子(21)、小原俊政(21)、西千鶴子(22)、二沢茂(23)、松本桂一(25)

〔二千元〕十八名。◎根岸とき枝(4)、赤沢えい(8)、太田健二(17)、戸来宮子(17)、広村いと(17)、川口義宏(20)、◎松本一雄(学)、大島秋子(8)、山下和幸(12)、吉岡信彦(12)、岡本喜代美(15)、永井節(18)、時田清雄(18)、福島重美(20)、岩崎幾男(25)、松本仁美(25)、林五郎(26)、茂島健次郎(28)

〔一千元〕十六名。◎鈴木孝雄(3)、国田イト子(16)、前田フサコ(16)、中沢要蔵(18)、菊池辰次(19)、佐々木勝一(26)、大村幸一(29)、黒沢甲子古(24)、◎長野寿一郎(9)、三好英子(19)、小林カノエ(21)、黒岩広吉(21)、古川静江(23)、千野健八郎(22)、千野京子(24)、一山阿砂美(28)

〔五百円〕五名。橋本長五郎(18)、谷田部りゑ(22)、高橋邦夫(25)、関忠三郎(27)、小野関健光(27)  
〔二八〇円〕一名。伊大知武(20)  
(副幹事長 上野欣二記)

# 同期会 便り

## 第十五期会 イコウ会

月日の経つのは早いもの、我等が母校、日本指圧専門学校でも三十期生が卒業、少し前卒業した様に思っていた我々も数えて見ると、早十五年もすぎ、何か走馬燈を見ている感じがいたします。

今春、記念行事として、ハワイ旅行を計画し、十五会役員で手分けして因泥先生にも御案内して頂き度く連絡をとりました。三月ならば都合よろしい旨、わざ／＼お便り下さり、今秋か、来春にでもご希望があれば満十五周年記念行事として再度計画実行致し度いと思っておりますので会員諸君の中から希望地、その他にご意見ありましたらお知らせ下さい。尚結婚や転居のため住所不明の方もお知らせしますので是非お知らせ願います。健康こそ一生の宝、特に気をつけられて日々お過ごし下さいます様お祈り申し上げます。 小林 彦太郎記

## 第十七期会

十七期同期会(会長 小林秋朝氏)では昨年十二月五日(土)午後六時から台東区東上野のタカラホテルで忘年会を兼ねて第五回同期会を開いた。前回(59年)は千

葉県鴨川グランドホテル一泊旅行だったが今回は大勢が気軽に集まれるようにと会場も足場のよい上野を選び土曜夕刻の開会とし、発会準備には戸来みや子、広村いと両委員がいつものとおり骨折られた。

同期会は同期会幹事長上野欣二氏が行ない恩師の先生方も浪越徳治郎先生をはじめ、徹先生、佐々昭三先生、小出忠志先生が多忙の中を差し繰り出席された。参加同期生は二十六名(A組七、B組六、C組十三名)。なかには卒業後二十二年振りに顔合せできた会員もあり旧交を温めた。会は大委員長、浪越校長の挨拶、徹先生の乾杯音頭で開宴。しばし歓談後、先生方も加わって、得意のカラオケを披露、ダンスを交わす仲間も出るなど楽しい旧懐の一時を過ごし、元氣な再会を約して八時三十分散会した。なお当日の出席者次のとおり(順不同)

- (A組) 糸井正子、川名朝子、齊藤良知、山田和子、桑原ナカ、伊藤梅、戸来宮子
- (B組) 土井恭子、岩橋千代、内木伊佐子、中尾努、広村いと
- (C組) 柿沼繁富、橋征雄、北條喜久一、渡辺和枝、佐藤須美子、高橋弘安、河合菊市、佐藤文子、志賀富子、小西陽子、丸井盛雄、小林秋朝、上野欣二

上野 欣二記

## 第二十期会 —十年の歩み—

第二十期の皆さんお元気ですか。光陰矢の如く、日本指圧学校卒業以来すでに十年が経ちました。

皆さんにはそれぞれの立場でご活躍のことと思います。卒業に際し、二十期の運営委員として指名された私達ですが、これという活動もしないうちに十年が過ぎてしまった感で、まことに慥たるものがあります。

委員十二名の内、Bクラスの面さんが一昨年惜しくも逝去され、又委員の中に諸種の事情で委員会に出席できない方もあり、現在はAクラス伊藤節子、Bクラス浅野良太郎、Cクラス舟島正八、Dクラス伊大知武の四名が常任幹事として各クラスの連絡等を担当しています。

卒業以来十年を経て会の運営、委員の交替等についても考慮すべき時期にきておりますので、各クラスにおいて検討していただきたいと思っております。

ここに、第二十期会十年間の活動の概況をご報告いたします。

一、活動報告  
昭和五十三年三月卒業より今日までに、委員会を十回開きました。その内昭和六十年六月の委員会において、

入学十周年に当る昭和六十一年中に第二十期同期会を開催することを議題として検討し、委員の外に各クラスの有志の参加を求めて実行委員会を設けて推進することになりました。

昭和六十年十月実行委員会を開きまして種々検討の結果、昭和六十一年の開催は難しいので、昭和六十三年の卒業十周年に開催できるように各クラスでその機運を盛り上げてゆくことを決定し、その後各クラスそれぞれ努力がはらわれて来ました。

昭和六十三年二月二十四日委員会を開き、その後の各クラスの状況について検討した結果、各クラス種々の事情があつて今のところ開催は難かしい状態であり、しかし、各クラスにおいてクラス会やグループ活動などが行われているようですから、今後こうした活動を活性化し交流を深めて、皆さんの協力のもとに第二十期同期会が実現できるよう努力してゆこうということになりました。

これについてのご意見、ご希望を常任幹事又はクラス委員にご連絡下さい。

### 二、対外活動

昭和五十三年と昭和五十四年の日本指圧学校体育祭と指塚供養に代表が参列しました。

昭和五十四年三月学校長浪越徳治郎先生夫人と昭和五十五年四月間先生のご葬儀に代表が参列しました。

昭和五十五年二月十一日の日本指圧学校開校四十周年記念式典に代表が参列しました。

昭和五十六年以降は、二十期としての対外活動は特にしておりません。

### 三、会計報告

卒業時の校友会費の中から昭和五十三年五月十二日、Aクラス八九名、Bクラス八五名、Cクラス七五名、Dクラス七八名合計三二七名に対し一名当り金三千元、合計金額九十八万一千円を各クラスに返金し、残金二十四万九千二百六十五円にて指塚供養、運動会、その他対外慶弔、委員会等の費用に支出し昭和六十三年二月末現在、残金三万六千五百六十七円です。(二月二十四日の委員会確認)

○日本指圧専門学校同窓会総会へのお誘い  
今年の同窓会総会は六月十二日茗溪会館で行われます。指圧協会に加盟している人達は夏期大学、都委話講習会、協会諸行事などに交流の機会がありますが、協会員でない方にはなかなかお会いする機会がありません。

総会はお互の親交を深め、指圧道の発展と同窓会の活性化をはかる卒業生すべての祭典です。  
懐かしい校長先生はじめ諸先生、先輩の方々、二年間苦楽

を共にした同期生の方々とお会いできる絶好の機会です。二十期卒業十周年に当る今回、総会に多数の同期生が参加されお会いできることを楽しみにしています。六月十二日、茗溪会館で会いましょう。

舟島 正八記

## 第二十四期A組 錦絵会

年一回同窓生の集い錦絵会は、当に学生時代の再現の如し、於て六十二年度喜びの錦絵会は、五月二三日、四日、会場箱根湯本ホテル、恵みの雨で箱根の新緑は一際鮮かに眼にしみる。家族同伴含む総勢三十三名、続々と馳せ集る再会の喜びは、握手も力強く和気藹々、当に大家族の集合の様相である。兼て予定通り、ホテル自慢の大研修場に於て十五時〇分より演題自由、先ず講師浅岡秀志先生を迎え治療体験発表「数分間指圧足反射療法」、医道日本六十二年四月号134頁、胆のう摘出後下肢のむくみ指圧有効方法」等種々の資料、教材を用い実技指導続く山田滋先生の問診、視診、触診法、実に愉快な話術は所定時間不足の感ありて残念、続 関智四郎先生講義「打身、捻挫、腫痛炎がたちまち治る。自分でできるマッサージ指圧法その他続く太田博久先生講義「健康人と爪」その他、実にユニークな講演で豊富な勉強内容は、愚者一筆に記すことも難し、只々感心するばかりで、錦絵会こそ参加すること意義大なり懇親会も又楽し、ホテル自慢の大風呂に浸り気分上々、くつろぎの大宴会場に於て益々元気で参加された小沼貞先生の乾杯発声でスタート。呑むほどにはずむカラオケ。又玄人顔負けの芸あり、特に川村泰司夫妻先生の歌謡曲には大アンコール。投銭お断りの応対ありての大盛会なり、八室に投宿するも、錦絵会は勉強会なりとばかり、どの部屋も結講な講師ありて一夜寝もやらず、さすがプロ、各部の精進はすばらしい。朝食時、次回幹事選出は取敢えず、山田滋先生を軸に次回は東京近辺会場にて開催する様な旨申合せ現地解散。別れはつらい。又逢う約束もたたく帰途につく。

錦絵会は楽しい。勉強の同窓会だ。 渡辺 定文記

## 第二十四期B組 茜会の歩み

成功するには成功するだけのわけがある。偶然の成功は決して長続きはしない。

失敗して、反省して、人一倍苦勞して得た成功なら、心から祝福できる。八十五名の茜会のみなさん、お元気にお暮しのことと思ひます。

今年第三十期生が楽しい学業を果立ちました。私達もついで先日指圧師になったような気が致しますが、振り返つて見れば今年丸々六年の歳月が経過しています。多分手抜の方も上達して立派な指圧師として、お働きになつていらつしやる事と思ひます。

茜会では毎年十月に、研修クラス会を開いておりますが、六十二年十月には箱根のホテルで、一泊二日の会を開きました。卒業して初めて出席された方々からも、とても好評で、これからは毎年参加することを約束してくださいました。

夕食迄の一ト時は、車座になって、今迄の失敗とか、成功とか、さまざまの経験を出し合つて検討し、一人の体験が、出席者全員のものとなつて、それぞれみんなの前頭葉に深く刻み込まれ、再びその体験が職場で、或いは社会で生かされている事と思ひます。

十月の箱根路はとて自然が美しく彫刻の森では、ゆつくりピカソ館などの見学をし、仕事から解放されて得た、ゆとりと安らぎを満喫し、湯元から再び東京に戻り、遠く東北の友々とお別れを惜しみました。後日手元に届いた記念写真を眺めては一人苦笑するものも又楽しからず……です。

どうぞ茜会のみなさま、次回からはご出席の程を、お待ちしております。

夢のような楽しいお知らせ  
六十五年の秋には、北海道で研修クラス会と観光を予定しています。今から心積りしておいてくださいネ。どうぞ実現出来ますように。

大きな希望があるため、六十三年度と、六十四年度は節約型の研修クラス会にするように、出席者全員で決定しました。  
今年十月第四日曜日 月曜日 二十三日、二十四日 お元氣な笑顔を、お待ちしております。

悲しいお知らせ  
六十二年十二月 あのおだやかで秀才な黒田利雄様がお亡くなりになりました。ありし日のお姿を想い出し、みんなでもう一度合掌致しますよう。

六十二年三月十日  
新宿御苑にて  
馬場 今朝美記

## 第二十五期C組

秋晴れに恵ぐまれた去る10月11日第2日曜日、小島英夫先生の紹介にて、新宿区市ヶ谷に有る、グランドヒル市ヶ谷本館地下の、安具楽(アグラ)にて、毎年恒例の第五回日本指圧専門学校卒業25期C組クラス会が、開催されました。今回は担任で有った、小林秋朝先生が、渋谷に完成した、近代設備を有する、浪越RCC指圧センターの開設式に出席されましたが、当クラス会出席のため、開設式を中座され、宴酌の当クラス会に駆け付けて下さいました。又大貫先生には、自家用車で、遠路宇都宮より出席され、新婚ほやほやで、幸せいっぱい、長谷川絃子先生は、出張先の名古屋より、駆け付けて下さり、出席下さった先生方、それぞれ御多忙中にもかかわらず、お集りいただき、総勢十四名の先生方と積もる話に花が咲いた一時を、楽しく過ごさせていただきましたが、本会も時間切れのため、お開きとなりました。しかし、一次会で別れるのがなんとなく惜しくて、二次会の運びとなりました。二次会場は新館一階のレストランにて、全員コーヒールの乾杯で始まり、学生時代の話、指圧技術営業の話、そして世間話、止まる所なく話が弾み、菅谷守先生の財テクの話に大輪の花を咲かせました。名残り惜しい心に、時間に鞭打たれ、お開きとなり散会致しました。次回のクラス会は、浪越校長先生を始めとして、お世話になった先生方に声をおかけして、出席をお願い致し、盛大に開催致したく思っておりますので、皆様方の多数御参加をお待ち致しております。

中澤 雅啓記



25期C組小林秋朝先生と共に

# 医学

## よもやまばなし 四方山話



東京大学教授 木村尚三郎先生

ヒポクラテス  
芸術は長く人生は短し

本来は「苦」でなく医療  
治療に励み生を楽しむ

この言葉はふつう、人の一生は短い芸術は永久の生命がある。だから生きていくあいだに精進して優れた芸術作品を残すよう努力せよ、の意味に解釈されている。これはどちらかというと、日本人的な努力型の理解の仕方である。自分の目の黒いうちにこうと思いついた作品、仕事有成し遂げられなければ、私たちの魂魄（こんぱく）はこの世にとどまって成仏出来ない。

ヨーロッパでは反対に、偉大な芸術、大事業は完成に長い時間が必要なのに人の一生は短い。だから良き後継者が得られなければ、優れた芸術は成し遂げられないの意味に解釈される。事実、パリの

### 榊原記念病院長 小船井良夫博士 心臓の負担増やすニコチン 今すぐタバコはやめよう

#### 動脈硬化の危険因子

喫煙、高血圧、高脂血症という動脈硬化の三大危険因子すべてを持つグループの虚血性心臓病の発生率は、二つだけのグループに比べ、二倍以上高いことが、いくつかの疫学調査で明らかになっている。

喫煙の害はまずタバコに含まれるニコチンの作用である。これが体内に入ると交感神経を刺激して、心拍数を増し、血圧を高める。血液の拍出量も増え、心筋の酸素消費も多くなる。従って冠状動脈に動脈硬化があつて、心筋への酸素の供給が不十分の場合、タバコを吸うと狭心症が起きるわけである。

また、ニコチンは副腎からカテコールアミンというホルモンを遊離させる作用もある。血管を収縮させ、動脈内壁上に障害を与え、そこに血小板を凝集させて血栓を作りやすくする。狭心症にとどまらず、心筋梗塞（こうそく）へと進展させる。

最近の研究では、喫煙によって血液中の「善玉コレステロール」(HDL)の値が減少することが明らかになっている。一日二十本以上の喫煙者は、非喫煙者に比べて、HDLが血液一デシリットル中に平均十ミリグラム少ないという報告もある。「悪玉」はその分以上に増えている統計が多い。

タバコを吸うと一酸化炭素は酸素よりも二百倍も強く、血液中のヘモグロビン

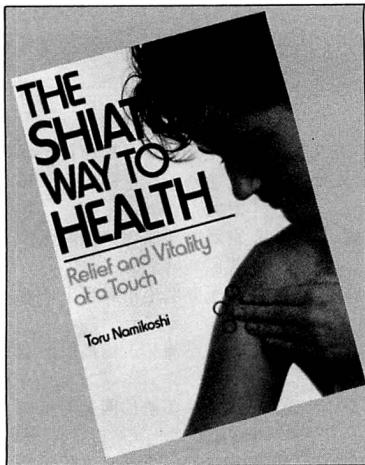
とくつきやすく、一酸化炭素ヘモグロビンとなって血液中を全身に流れ、酸素を運ぶという血液本来の仕事が出来にくくなり、そのため、心臓は血液をより多く送り出さねばならず、心臓の負担が増える。心臓については心筋に酸素不足状態を作りだす。

このように喫煙は心筋にとって、まさに百害あって一利なしである。欧米では一日二十本を超える喫煙者は非喫煙者に比べて三・二倍の虚血性心臓病の発生率を示している。

昨秋、厚生省から「タバコ健康白書」が発表された。わが国の調査結果でも、虚血性心臓病の発生率が喫煙者は非喫煙者に比べ十四・六倍、死亡率で一・六倍高い。

虚血性心臓病を発症する危険性は、一日に吸うタバコの本数が多いほど、喫煙年数が長いほど、また喫煙開始年齢が若いほど高い。わが国の成人男子の喫煙率は年ごとに下降しているが、最近の統計でも六二・五％で、欧米各国の三〇～四〇％に比べまだ高い。しかも喫煙年齢は年々若い層に移っており、心臓病患者の若年化の傾向と一致している。若者が虚血性心臓病の適齢期を迎える将来、心筋梗塞の急増が憂慮される。

世論調査によると喫煙者の約七〇％が「やめたいと思う」または「やめたことがある」と回答している。禁煙不実行の理由としては、「習慣」「意志薄弱」であった。心臓病に限らず成人病は「習慣病」である。まだタバコを吸っている人は今からでもおそくない。即刻、悪習慣を断ち切っていたいだきたい。

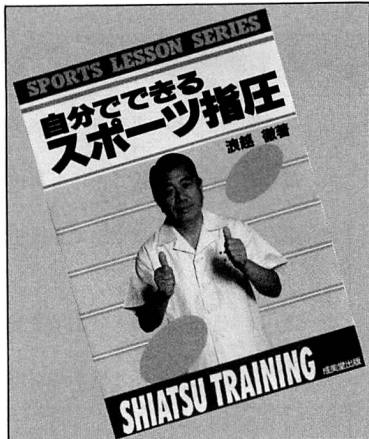


### “THE SHIATSU WAY TO HEALTH”

英文“指圧健康法”が三月下旬発売された。今回で英語版四冊目の出版となり、主な内容は自己指圧法、ストレッチング併用の指圧とスポーツ、初心者が二人組のペアで家庭指圧ができるよう練習方法が書かれている。

講談社インターナショナル

二、四〇〇円。



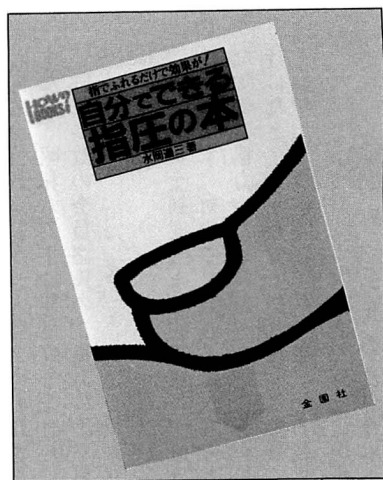
### 自分でできるスポーツ指圧

日本指圧専門学校 副校長 浪越 徹著

- ・機能をととのえるためのトレーニング
- ・実力を高めるためのトレーニング
- ・指圧のできる応急処置

三部からなり、スポーツに指圧をとり入れたトレーニング法、筋肉に持久力がつき、ベストコンディションづくりなどが述べられていて、スポーツ愛好家、スポーツマンを治療する際にも参考に利用できる。成美堂出版 八八〇円。

# 新刊 紹介



### 自分でできる指圧の本

水岡 道三著

日本指圧協会副会長で後進の指導にあたられている、浪越門下生の著者が“指圧の良さ”を味わっていただきたいとの念願から家庭指圧のすすめとして、全身操作法から自己指圧法まで解説されている。62年8月3版発行 金園社

七五〇円

## 昭和六十三年年度日本指圧専門学校

### ◆同窓会通常総会・懇親会のご案内

左記により同窓会総会を開催いたしますのでご出席下さいますようお願いいたします。

昭和六十三年三月

日本指圧専門学校同窓会会長

山内 貞 四 郎

同窓会会場案内

### 記

一、とき 昭和六十三年六月十二日

一、ところ 開会 一・〇〇〜五・〇〇

茗溪会館(電話九四三—〇三二)

(地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅)

一、内容 下車徒歩一分 地図は下記)

総会(一・〇〇〜三・〇〇)

記念講演「スポーツ指圧」

日本指圧専門学校副校長

講師 浪越徹先生

懇親会(三・〇〇〜五・〇〇)

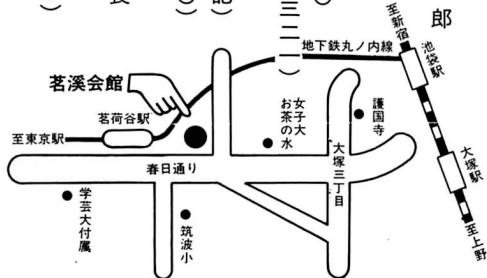
一、会費 六、〇〇〇円(当日も可)

一、申込 同封の振込用紙にて会費前納して頂きますと受付事務

混雑が防げますのでご協力の程切にお願い申し上げます。

同封の申込はがき(切手不要)に出欠を明らかにして六月十日までに必着でご投函下さい。申し込み人数

にて準備を進めますので。



## 編集後記

今年には暖冬に始まり急に厳しい寒さが襲ったかと思えば、早々と春一番が吹きつけたりまことに不順なめまぐるしい早春となりました。会報がお手許に届く頃は、美しき五月、黄金週間の真只中、皆様にはいかがお過ごしでしょうか▼三月母校を卒業された三十期生の皆様のご活躍を祈念するとともに、同窓会に新しい仲間が、若葉にそよぐ風のごとく、爽やかな新風を吹きこんで下さることを願っています▼この春休み、新聞の報道によると、行政の意向は「手技療法」の医療従事者の資質を高めるため専門学校に修業年限を近い将来一、二年引上げてより高度な「専門職」に再編成し、資格試験の難易度も高くし、社会的に信頼感と権威ある位置にあらしめようとする指針が打ち出されたことは、日本指圧専門学校の同窓生には歓迎すべき環境であると云えよう▼指圧界一丸となつて体制を受け入れる柔軟性と大切な時機に、今まさにさしかかっているような気がしてならない▼最近のコラム欄で「耳たぶに縦じわが現われたら脳卒中にご注意!」慈恵会医大グループが学会で報告。「納豆、血栓を溶かす」心筋梗塞予防に道。宮崎医大、岡山理科大が確認と一日おきに記事が目についた、興味とともに社会時評にも五感を調へ一層気配りせねばと思うこの頃です。

会報編集委員長 小林 秋朝